

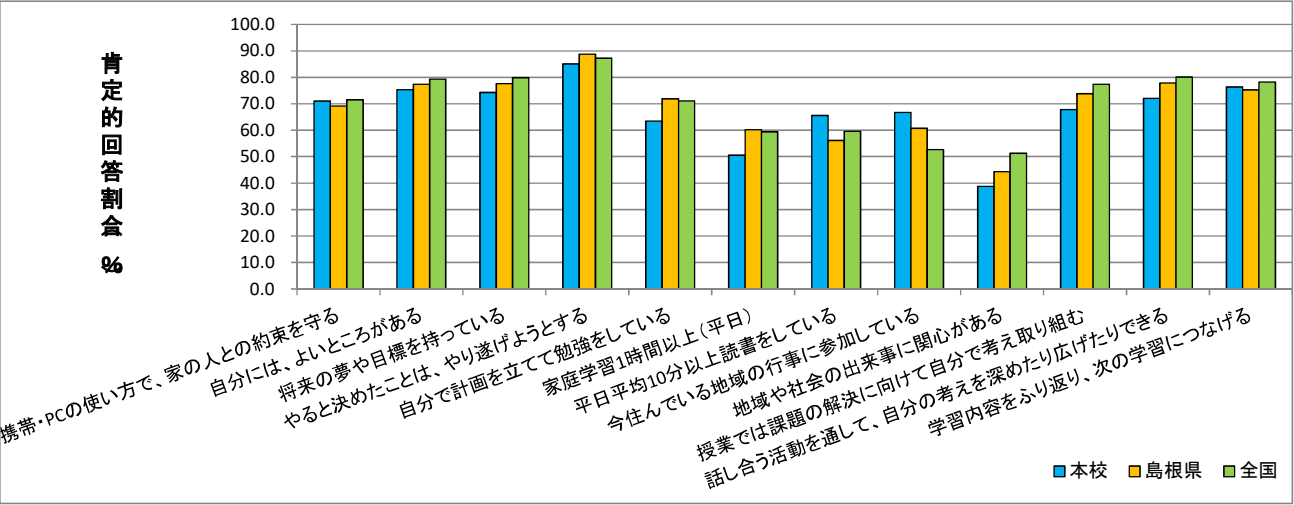
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題での正答率が他の問題と比較して高い(全国や県との平均の差が小さい)。 ●自分の考えや物語から想像したことなどを書いてまとめる問題の正答率が低い。	・自分の考えを書いたり、話し合ったりする場面を単元の中で計画的に設定する。 ・日記指導や作文指導を計画的に取り入れる。
算数	○数と計算の領域の正答率が他の領域と比べて高いものが多い。 ●示された場面や関係から考察したり、考察したことを記述したりする問題の正答率が低い。	・自分の考えを式や図、文章等で表現したり、ペアやグループで伝え合ったりするなど、説明する場面を設定する。 ・復習プリントやミニテスト、毎月実施の「計算オリンピック」などを継続して行い、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
理科	○選択式の問題が、他の問題と比較して、若干正答率が高い。 ●情報をまとめたり検討したりして自分の考えをもち、記述する問題の正答率が低い。	・実験の方法や手順、予想や考察など、自分の考えをペアやグループで話し合い、説明する場面を設定する。 ・単元のまとめや感想を自分の言葉で書く活動を行う。

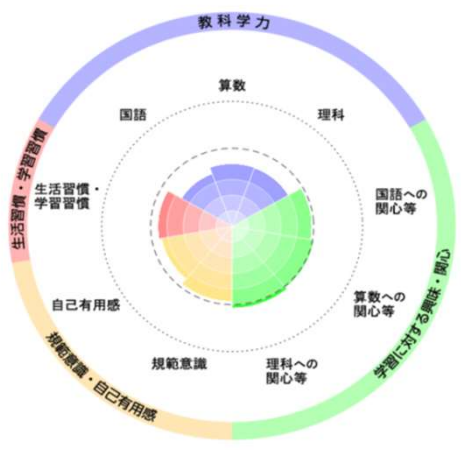
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○基本的な生活習慣が確立している(朝食の摂取、起床・就寝時刻)児童の割合が他の質問と比較して高い。 ○自分にはよいところがある、役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が他の質問と比較して高い。 ●家庭でテレビゲームをする児童の割合がかなり高い。	・生活習慣を見直すためのチャレンジ週間を設定し、メディアとの関わり改善へのきっかけとする。 ・メディア学習を実施したり、学校だよりや学級懇談会、学校運営協議会、PTAなどと連携した啓発の取組を行ったりする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・国語科(説明文)を中心とする系統的な学習指導を展開し、児童が説明する力を身に付けることで、自分の考えや気持ちを伝え合うことができるよう指導に努める。
・学級における居場所づくり等の取組を通し児童の自己有用感を育てるとともに、児童が自身のよさや課題に気付くような取組を行い、自尊感情の育成を図る。

【受検者数】

93 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。